



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

国際会長主題 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
 アジア会長主題 「変化をもたらそう」
 東日本区理事主題 「変化を楽しもう！」
 あずさ部部長主題 「変わるに挑戦！」
 東京西クラブ会長主題 「変化を恐れず、少しずつ」

2020年12月号

NO 531

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」
 マタイによる福音書 5章13~16節

EMC/MCにおもむ

神谷幸男

「ワイズメンズクラブってこんな素晴らしい団体なのにどうして会員が増えないのだろう」というボヤキを耳にしたことがある。「素晴らしい」とは、この団体の行っている活動が素晴らしいのか、団体の構成員が素晴らしい人たちであるのか、その両方なのか評価はいろいろであろうが、とにかくこのボヤキには全く同感である。

会員が増えない阻害要因としてはいろいろ考えられる。

- ・素晴らしい団体とは言え、しょせんは人の集まりであるから当然のことながら人間関係に不協和がある。
- ・「素晴らしい」と思えることの割には会費が高い。
- ・宗教臭がして同調し難い。
- ・「素晴らしい」活動をしているというが、目の当たりにした経験がない。

・「素晴らしい」活動をしているというが、その素晴らしさの神髄にその意義・価値が理解できない。

ワイズメンズクラブの素晴らしさを外部へ伝達することの働きかけは、個人が基本であると思うが、これに限界を感じている向きには労力と資金の面での限界や前述の阻害要素を考慮しつつ、クラブレベルまたは数クラブ合同で行動すべきと思う。

目下「Change! 2022」等、区レベルでは勿論、国際レベルで会員増強運動が強力に推進されているので、2022年には所期の成果が得られよう。

今、石巻広域クラブが展開している YOU TUBE を活用して発信している活動は、先駆的で極めて魅力的である。おそらく期待以上の成果がもたらされるものと思う。

12月WHOは中止



歩く予定だった明治神宮菖蒲田の冬景色

12月19日(土)に行く予定だった WHO ウォークは案内状の発送直前に中止を決めました。今回は、明治神宮御苑と新宿御苑で紅葉を愛でる予定でした。

コロナ感染の状況次第ですが、2020年は、コロナ禍のために2回しか歩けませんでした。2回の下見が無駄になり、中止の案内、検温器、ポータブル拡声器など思わぬ費用が発生しました。

2021年は、よい年となりますように。前向きに備えます。

クラブ役員

会長 篠原 文恵
 副会長 大野 貞次
 書記 本川 悦子
 会計 石井 元子
 担当主事 横山 弥利

11月の記録		ニコニコ	6,250円
在籍者数	12人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド(当月)	—円
出席者数	11人	コメント	0人
		クラブファンド(残高)	156,587円
メーキャップ	0人	ビジター	2人
		ホテ校ファンド(当月)	7,700円
出席率	100%	ゲスト	3人
		ホテ校ファンド(残高)	31,229円
前月修正	—	出席者合計	17人
		WHO参加者	35人

12月クリスマス例会

今月の強調テーマ：EMC/MC

早いもので今年も残すところ14日となりました。コロナ禍にあっても皆さまにはお元気にお過ごしのことと存じます。

今年のクリスマス例会は例年と少しおもむきを変えて今に生きる我々へのクリスマスメッセージを地域の成宗教会牧師・齊藤正先生にお話しいたします。

日時：12月17日（木）

18：45～21：00

会場：ウェルファーム杉並4F第5集会室

杉並区天沼3-19-16 03-5335-7318

会費（メンバー以外）：1,500円

担当：C班（石井、神谷、河原崎、横山）

受付 河原崎和美

司会 神谷 幸男

第1部

18:45～19:30

開会点鐘

篠原 会長

ワイズソング（静聴）

一 同

聖書朗読・祈祷

神谷 幸男

クリスマスメッセージ

日本キリスト教団成宗教会牧師

齊藤 正先生

祈祷

齊藤 正先生

讃美歌109番（2節まで 静聴）

一 同

祝祷

齊藤 正先生

会長挨拶とゲスト・ビジター紹介

篠原 会長

諸報告

会長、各担当、担当主事

第2部

12月例会は上記ご案内の通り、静かに祈りの時を持つ予定でしたが、新型コロナウイルス感染者がまたまた増加したため、12月13日に中止のお知らせをいたしました。

HAPPY BIRTHDAY

4日 神谷 雅子 15日 吉田 廸子

18日 村野 絢子

—11月事務会報告—

日時：11月26日（木）

16：00～18：00

場所：ウェルファーム杉並

出席者：石井、篠原、吉田

出席者が3人だったので、メンバー全員にメールでレジュメを送信、12月クリスマス例会時に意見を聞くことにした。

<報告事項>

①10・11月の月次会計・データを受け取った。

<例会関係>

◆12月事務会の日程

定例の事務会日がクリスマスイブにあたるので、12月23日（水）16：00～に変更する。

◆1月例会

卓話者・鴨澤小織さん（社会福祉士・日大文理学部社会福祉学科助教授）との打ち合わせは12月4日に行う。

<その他>

2021年在京ワイズ新年会は、新型コロナウイルス対策のため中止となった。（書記代理・篠原文恵）

「ワイスあれこれ」

★次々期東日本区理事 甲府21クラブ・佐藤重良さんに決定

郵便による臨時代議員会（8/30～9/6）の結果、代議員72名の内56名の投票結果により選出され、承認された。（理事通信第4号から）

★樫村メモリアルプロジェクト

故樫村好夫さん（医師・富士クラブ）のご遺志により100万円のご寄付を受けた東日本区が、医療関係のCS活動の補助を目的にメモリアルプロジェクトとして運用することが決定された。（理事通信第4号から）

★“アニバーサリープレゼントプラン”ご協力をお願い

コロナ禍で、ステイホーム（巣ごもり）の日も多くなっています。こんなときこそ、遠方にいる友人・知人を思い浮かべて、「会員候補者」としてアニバーサリー プレ

ゼント（紹介）しようではありませんか。東日本区61クラブの会員一人ひとりが、「ワイズの存続のためには会員増強は不可欠である」という意識を共有して、「ひとりが1名」を紹介できたら、目標達成は現実のものとなるでしょう。

（Change! 2022 推進委員会・EMC事業委員会 伊藤幾夫さん）

★アマゾン「みんなで応援プロジェクト」、同盟WEBサイト専用ページ

<https://www.ymcajapan.org/ouen/>

全国のYMCAでは、困難な時代にあっても、様々な知恵と取り組みを通し地の塩、世の光として、灯という希望が掲げられるように、チャレンジを続けています。アマゾンとの協働でクリスマス、年末年始に向けて、社会の中で困難の中にある方たちへ応援するプロジェクトを立ち上げました。

（篠原文恵）



卓話者は樋口順英さん、撮影はマスクを外して

クラシック名曲を味わう -11月例会報告-

11月例会を東京都のコロナ感染者が過去最高の534人を更新した、11月19日(木)夜、通常通りウエルファーム杉並で行いました。定員72人の会場に17人、間隔を空けて教室スタイルに全員マスク着用で同方向に向いて座り、ワイズソングは曲を静聴。「美濃吉」のお弁当を食べました。まるで小学校、篠原会長が先生のように。

卓話は、東京グリーンクラブのブリテンに『Viva Classical』と題して、クラシックの名曲の紹介を連載されている、同クラブの樋口順英さんにお願ひしました。題して『音と映像で楽しむ名曲とのひととき』。

樋口さんが、各国で第2の国歌と言われているほど親しまれている曲の背景、風物、作曲家、演奏会の模様、聴きどころなどを簡潔に説明されました。関喜一郎さんにも応援をおねがひしました。

曲は、ワイズソング「いざ立て」の原曲であるシベリウス作曲の交響詩「フィンランディア」、チェコの音楽の祖とされるスメタナの交響詩「モルダウ」、エルガーの行進曲「威風堂々」、Jシュトラウスの「美しく青きドナウ」、および「ラデッキー行進曲」でし



教室スタイル、マスク姿のニコニコ

た。全員参加のニコニコは、卓話を話題に感想や曲にまつわる思い出などが語られました。マスクで聴こえづらいこともあり、今回は2本のマイクを回しました。飛沫防止のためマイクは殺菌しガーゼをかぶせました。一人が話している間に、ガーゼを外し、本体をアルコールで清拭して、新しいガーゼを被せて輪ゴムでとめて次の人に渡す、という繰り返し作業を、関東東部部会で経験した樋口さんが引き受けてくれました。とにかく大変な作業でした。コロナ対策の決め手はなく、当分、工夫を重ねることになりそうです。

その後、樋口さんから、カラオケなどで使われている個包装の使い捨てマイクカバーとマイク専用消毒消臭スプレーを頂きました。

12月例会で試しましょう。

(吉田明弘)

出席者：<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、横山、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>田上正(熊本むさし)、樋口順英(東京グリーン)、<ビジター>小峰敬子、関喜一郎、恒石浩志

黄金井の“水”を巡る -WHO11月例会報告-

WHOの11月例会が、秋晴れの11月28日(土)に行われました。小金井を国分寺崖線に沿って歩き、清流と地形を楽しむのが目的でした。JR武蔵小金井駅を10時30分に35人で出発。歩き出すぐ、なんとビル風にあおられ、「ほどよく都会、ほどよく田舎」の小金井を実感しました。

崖線と並行に走る連雀通りを西に向かうと、左手の辻々でさまざまな坂道と遠景が望めます。

明治・大正期の実業家・政治家、波多野承五郎の別荘・滄浪泉園は市が管理しています。崖を石段で下まで降りると泉水をたたえた池があり、しばし秋を味わいました。湧き水口が2か所ありますが、バランスを失うと危険なため、今回はパスして、再び崖上に。

園の西側で発見された、古代遺跡を回りました。何もありませんが、元担当主事で野外活動に詳しい佐藤健さんに短い解説を頼みました。ここからは、野川に平行する平坦な道を東へ。徳川家祈禱寺の幡随院、ケヤキ、ムクノキの大木のある金蔵院、維新期の侠客の親分・小金井小次郎の墓のある西念寺、拝殿を改装中の小金井神社を巡り、野川の天神橋付近の岸が観覧席状になっている絶好の場所でお弁当を開きました。水辺のヨシなどの葉の間から、秋の陽



野川の清流を眺めつつ昼食タイム

にきらきら光る水の流が見えて気持ちの良いところでした。今回は、どうしたことか、11時過ぎから昼食の場所や時間を聴く人が多くいました。

昼食後、はけの小路といわれる幅80cmほどの水流に沿った小道を美術の森緑地へ向かいました。ここは大正・昭和期の西洋画壇の重鎮・中村研一のアトリエや茶室が残された市立美術館。庭には泉が湧き、崖も森もあるハケの風景でした。ここで、解散状態になって、武蔵小金井駅へ。主力は、六地蔵と、マイ蛇口を使うと地下100mのおいしい水を汲める黄金の水に寄って、“水の小金井”の締めくくりとして、14:00に解散しました。

今回のワイズ関係の参加は、吉田(東京西)、樋口(東京グリーン)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)でした。(吉田明弘)

YMCA Today

■ホテル学校では、例年のない変則スケジュールで授業が行われていますが、11月で二学期が終了。2年生の就職活動はコロナ禍にあって近年類を見ない厳しさの中でも内定率83%、これからも粘り強く学生とともに活動していきます。1年生123人は12月7日～1月30日までの約2カ月間のホテル実習を開始します。学生たちはリゾート地を中心にさまざまなホテルにて、これまでの授業で学んだサービスの技術や知識を本物の環境にて実践します。ホテルリエとしてはもちろんですが、一社会人として大きく成長して戻ってくることを今から楽しみにしています

■障がいのある子どもたちを対象とした「三菱商事・YMCA 秋の山中湖キャンプ」は、今年は新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、ファミリーキャンプとして開催。10月17日～18日、山中湖センターに14家族とボランティアリーダー、三菱商事の社員ボランティア他、総勢67人が集い、クラフトやレクリエーション、カヌーなどを楽しみました。

■11月18日よりAmazonによるチャリティープロジェクト「みんなので応援」プログラムが開始され、全国のYMCAも支援を受けることになりました。これは各団体が希望する物資の「ほしい物リスト」をAmazonのサイトに公開し、賛同者がリストから購入した商品が、支援先に寄贈される取り組みで、東京YMCAも「下町こどもダイニング(こども食堂)」で活用する備品等をアップしています。

■熊本豪雨災害復興支援チャリティコンサートが1月29日開催
会場：日本基督教団霊南坂教会出演：青山学院女子短期大学グロリアス・クワイア(ハンドベル)、飯靖子氏(指揮・オルガン)、飯頭氏(ヴィオラ)

(担当主事 横山弥利)

やる気情報満載
毎月15日に発信
Change! 2022
EMCニュース
ワイズドットコムで配信されます



上の写真は、甲府21クラブの30周年記念例会の集合写真。各クラブからの出席者を1人に限定、食事はお弁当、飲み物も控えめでソーシャルディスタンスを守るなど、主催者には色々ご苦労があったようです。当クラブからは大野副会長が出席しました



☆☆インタビュー☆☆87☆
鈴木 茂さんに聴く
横浜つづきクラブ



—鈴木さんのワイズ入会は何年ですか。

「2006年5月、横浜つづきクラブのチャーターの時に入会しました。ですからワイズ歴はまだ15年弱の未熟者です」

—どなたに、何と言って誘われたのですか。

「同じ田園都筑教会仲間の林茂博さんから、飲み会・懇親会を大切にする楽しいボランティア団体だと誘われました」

—林さんはクラブづくりの達人です。飲み会で攻めましたか。

YMCA やワイズに関する知識は？

「私が大学1年の時に受洗した名古屋の御器所(ゴギソ)教会に、名古屋YMCAの理事長やワイズ日本区理事をされ、私の媒酌人でもある鳥居一良さん(故人)がおられ、聞いてはいました」

—誰かから、林さんは奥さんの恭子さんを先に誘ったと聞いたことがあります。真相は。

「YMCAとの繋がりという点では、恭子が高校時代にハイYにいた、ということを行っているのだと思います。2人で入会しました」
—抵抗はありませんでしたか。

「キリスト教徒として、退職後は何かボランティア活動をしたと思っていましたので、特に抵抗はありませんでした」

—お生まれは、どちらですか。

「生まれは名古屋ですが、小学校低学年で愛知県渥美郡高豊村(今は豊橋市に編入)疎開しました。父は小学校教師、4人兄弟の長男です」

—こどもの頃は、どんなでした。

「学芸会に出て喜んでいよう

な目立ちがり屋だったように思います」

—国民小学校で、疎開世代でしょう。何か、その時代ならではの思い出がありますか。

「わらじを自分で作って4キロの道を通学していましたので、自分のことは自分でする自立心が強かったように思います」

—凄い。私は新潟で草履でした。

「家の周りに自然が広がっていましたので、林の奥にアケビや松茸の群生地を見つけて、1人だけで得意になっていました」

—大学時代に勉学以外に熱中したことがありますか。

「ESSというサークルに入っていて『関西4大学英語討論会』で、京都・大阪・神戸大学に出掛けて行き、生意気にも世界経済動向などについての英語のデイベータリングに挑戦していました」

—最初から銀行志望でしたか。

「ゼミの教授が当時日銀の政策委員もしていた金融政策の専門家でその影響を受けました。就職は教授の割り振りに従いました」
—銀行は、営業(業務)も。

「私は営業には向かないと評価されていたのでしょうか。担当したのは貸出審査、企業・業界調査、経営診断分野だけです」

—鈴木さんは、お酒は。

「やはり、銀行で管理職になってお客様とのお付き合いが増えたからですね。現役の頃はハシゴもありましたが、今はあまりハシゴはしないようにしています。もっぱらワインか芋焼酎です」

—スポーツは。

「下手なゴルフでしょうか。現在も横浜YMCAのチャリティーゴルフ実行委員をしています」

—鈴木さんは、YMCA史学会の理事をされています。良い人に目を付けたと感心しています。前に鈴木さんの全国の都市YMCAの会則を比較検討された資料と報告を聞きました。また「YMCAにおけるエキュメニズムの考察」につ

いての講演をされました。あいう問題をまとめて話せる人、書ける人は少ないですね。

—鈴木さんは、ワイズの中でのキリスト教儀礼に批判的ですね。

「私はYMCAの特色は、そのエキュメニカル性にあると考えています。ワイズを特色づけているクリスチャニティー(キリスト教精神)は、国際憲法や東日本区定款にも明記されている通り、ワイズの基本理念です。この理念こそ、ワイズが国際社会において平和を目指す様々な活動を展開する原動力になっていると思います。このクリスチャニティーとはキリストの教えの実践ということであり、これはワイズのあらゆる活動、交流、組織運営において実現されるべきものと考えます。ワイズの例会等における聖書朗読や祈禱などは、キリストの教えの実践ではありますが、それだけが『教えの実践』ではありません。むしろ、例会等における礼拝儀式だけをもって、ワイズのクリスチャニティーは事足りるとするならば、それこそ問題だと考えます。さらに、例会等における礼拝儀式に対して、ノンクリスチャンの方々等から抵抗感や反発があるとすれば、キリストの愛と奉仕の実践というワイズの大きな目標達成のためには、この際、礼拝儀式を割愛する選択肢も決して間違いではないと考えます。これはYMCAの「パリ基準」に基づいた私の考え方であり、ただし私自身は、キリスト教徒ですから、例会等の礼拝儀式はできれば存続させたいと願っています」

—ワイズに入って良かったと思われることは。

「尊敬すべき方々にお会いできたことです」

—最後に、座右の言葉は。

「自分に欠けているという自覚から『神と人の前で謙虚であれ』という言葉です」

—有難うございました。(吉田明弘)

私の大切な物⑫ 村野絢子

母の足踏み式シンガーミシン

ミシンの名は「シンガーブルーチャンピオン188u」足踏み式の職業用で直線縫い専門である。伯母と住んでいた大久保の家からうちに来た。ベルトを新しくして具合が良いと喜んでいて母を思い出す。

中国から引き揚げて、静岡の森町に住んでいた。それは黒くて頑丈な足踏みミシンであった。戦後の物のない時代、私たちに、伯母が適当な生地を見つけ東京から送って下さっていたのを後に知った。思えば私たち4人兄弟の着るものすべて母の手作りであった。母は洋裁を専門学校で学んだ。

妹とお揃いのワンピースはえんじの袴をリフォームし白い襟付きで大好きだった。遠足の朝「絢ちゃん、できたわよ、これ着ていきなさい」と云われ「いつの間に作ったの?」と驚き、新しい洋服を着た、誇らしい気持を思い出す。

後に、上の弟が学生運動で警官に引っ張られるところをテレビに映され、母の手製のジャンパーを着ていたのも忘れられない。

私には「これからは既製品がどんどん出てくるから作らなくていいわよ」と云った。母は自分や身内の服だけでなく、「婦人の友」と「暮しの手帳」を愛読し、どんな体形の人にも着ていて楽な洋服を作って喜ばれていた。ポータブルミシンのある現在、母のミシンは今めったに使われないが、私たちを育て、物を作る喜びと楽しさを教えてくれた大切な物である。

そして2020年11月3日8時半、杉並区の粗大ごみ収集車にて2,000円の手数料の印紙と共に回収された。

良く働きました、有難う。



八十歳代に思う事

石井 元子

八十歳代になってから数年が流れ、近頃、著しく我が身の老化を意識するようになった。思いがけないコロナ禍で、社会全体の行動様式や行動範囲が変化し、それに即応出来ないのが老化現象だと痛感している。

自粛生活が長引き戸外の生活が激減したため、久し振りに外出すると、なじみの駅の修復工事が進み、毎日のように歩いていた駅中で迷い、行きつけの店に行くのに道を間違え愕然とした。

家中では、目的があって移動しているのに、他の部屋に入った途端、何しに来たのかと一瞬、あるいは数秒考える。考える頻度が増え、考える時間が長くなった。

目で確認できる外見の老いは、今更書くまでもないが、自分で気にしているのが爪と毛髪である。爪は二十歳代の頃から長く伸ばし、マニキュアをして楽しんでき

た。その爪が弱くなり、折れたり二枚爪になったりして、ついに短く切った。マニキュアなしの小さくなった自分の爪を見る度に、手の甲のしみも目につき、老人の手だと認識する。

毛髪は抜毛が増え、洗う度に浴室の排水溝の網が抜け毛で真っ黒になる。髪型を工夫して、多く見えるように努力しているが、先は厳しい。

けれども歳を重ねて良い事もたくさんある。いろいろな場所で大勢の人に出会い、様々な経験をしたお陰で、物事を、自分の中に上手に受け入れたり、受け流したりし、楽する事が出来るようになった。現在は、楽天的な性格と健康な身体、理解ある家人と優しい友人のお陰で、ストレスなしの幸せな生活を過ごせることに感謝!

コロナに負けず、出来るだけ長く、八十歳代を楽しみたい。

編集後記

コロナ禍にあっても11月はリアル例会を開くことが出来、これでようやくクラブ例会も正常に復したかなと思いましたが、またまた新型コロナの感染拡大の惧れが増大して12月例会は中止に追い込まれてしまいました。まことに慚愧に堪えません。しかしコロナに負けずに頑張りましょう。

鎮まるところを知らないこのウイルスのおかげで活動が制約されブリテンに相応しい記事が書けない状態にもかかわらず原稿を寄せてくださいましたことを感謝します。インタビューの鈴木茂さんのクリスチャンティーに関する件、私も賛同いたします。

12月号はトラブルが重なり発行が大幅に遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

皆さま、月並みですが向寒の砌よいクリスマス、よいお年をご健康のうちにお迎えください。

(S. K)